

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27098 プログラム名 キュレーター（学芸員）の仕事を体験的に学ぼう
～日本画の魅力と作品保存の科学～



開催日：平成27年8月19日(水)

実施機関：東海大学(湘南校舎)

(実施場所) 松前記念館(歴史と未来の博物館)

実施代表者：篠原聡

(所属・職名) 課程資格教育センター・准教授

受講生：中学生：15名 高校生：7名(計22名)

関連URL：http://www.u-tokai.ac.jp/about/campuses/shonan/news/detail/post_150.html

【実施内容】

知られざるキュレーター(学芸員)の仕事を「発見・体験」してみよう—日本の伝統的な美術と触れ合いながら、日本画の魅力や文化財を守り伝える学芸員の仕事を体験的に学ぶプログラムです。

1. プログラムの実施で留意、工夫した点

プログラムは2部構成とし、講義を受けてから実習に参加することで体験学習の学びを深めるとともに、講義にも参加体験型のプログラム等を組み込み、受講生の興味関心を高め、集中力を持続できるように工夫しました。午前中の講義では、学芸員の仕事の魅力や研究成果をわかりやすく伝えるために、美術作品が作られた歴史や背景を受講生とともに考える場を設けました。また、近年注目を集めている作品保存の科学(文化財IPM)の考え方を、「虫眼鏡で博物館内虫探し」などの参加体験型プログラムを交えながらわかりやすく紹介したほか、鎗木清方記念美術館の学芸員・今西彩子氏による日本画(掛軸)の取り扱い方の実演など、学芸員の仕事の一端を受講生が体験的に学べるように工夫しました。午後の実習では、藤沢市アートスペースの学芸員・小林絵美子氏を実技担当者として招くとともに、秦野市立本町中学校の美術科教諭・山崎裕太氏にも加わってもらい、受講生への肌理の細かい指導ができるように配慮しました。時間内に豆うちわを完成できるように、画材等の事前準備に配慮した他、事前に受講生に連絡して描く題材をあらかじめ用意してもらいました。

2. 当日のスケジュール

- 10:00-10:30 受付
- 10:30-10:45 開講式(あいさつ、科研費の説明、オリエンテーション)
- 10:45-12:35 午前の部 講義「学芸員の仕事を体験しよう!!」
学芸員(研究者)による特別講義の後、参加体験型プログラム①②③を実施しました
- 12:35-13:35 (お昼休み) ※学芸員や研究者、学生と一緒にお昼を食いました
- 13:35-15:30 午後の部 実習「日本画にチャレンジ!!」
日本画家による解説・実演の後、受講生が豆うちわに日本画を描きました
- 15:30-15:40 (休憩)
- 15:40-16:00 クッキータイム(研究者や学芸員と討論、質疑応答)
- 16:00-16:30 修了式(アンケート記入、未来博士号授与、写真撮影)
- 16:30-17:00 ※希望者のみ松前記念館のバックヤードツアーを実施しました

3. 実施の様子

午前中の講義 ～ 参加体験型プログラム



講義風景



展示環境の清浄度テスト



虫眼鏡で博物館内虫探し・トラップ調査



実体顕微鏡で虫観察



日本画(掛軸)の取り扱い方(今西彩子学芸員)



支持体(紙・絹)の違いを確認

午後の実習 ～ 修了式・記念撮影



日本画の実演(小林絵美子学芸員)



豆うちわに日本画を描く



受講生へのアドバイス(山崎裕太教諭)



初めての日本画体験



山本和重所長より未来博士号授与



最後に全員で記念撮影

午前中の講義では、知られざるキュレーター(学芸員)や研究者(美術史)の仕事、「探偵」や「医者」に例えながら、参加体験型プログラムも交えつつ、わかりやすく紹介しました。午後の実習では、日本画の特徴や岩絵具、膠(にかわ:動物の骨や皮でつくられる糊)などの日本画材の説明、日本画の描き方の実演の後、受講生には豆うちわ(持ち帰り可)に日本画を描いてもらい、創作を通じて日本画の魅力に迫りました。自ら手を動かすことによる表現の楽しさが、受講者個々の「達成感」や「作品への愛着」の姿勢を育むことにつながったようです。プログラム全体を通して、子どもたちが、普段あまり接する機会のない日本画の魅力や学芸員の仕事の醍醐味を実感する有意義な機会になったと考えます。

4. 事務局との協力体制

事務局で委託費の管理や支出報告書の確認、日本学術振興会への連絡調整、提出書類の確認・修正等を行っていただきました。また、物品購入、協力者・アルバイト学生への謝金、受講生の保険加入等の事務手続き、学内関連部署との連絡調整、会場の設営、アンケート集計などの協力を得ました。

5. 広報活動

事務局と連携し、近隣の小中学校を中心にチラシ・ポスターを配布しました。また大学の一貫教育課や広報課とも連携し、付属学校や学内博物館施設へのチラシ・ポスターの配布、掲示、大学 HP への募集案内の掲載を行い、後日、プログラムの実施報告も大学 HP に掲載しました。

6. 安全配慮

本プログラムの内容では、受講生に危険がおよぶ場面は想定しにくいと考えていましたが、万全を期すべく、安全面における具体的な配慮・対策として、参加体験型プログラムにおいて適宜、ゴム手袋等の着用等を受講生に促しました。また、受講生、協力者、アルバイトについては、大学側で傷害保険に加入いたしました。

7. 今後の発展性、課題について

「今まで知らなかったこと(科研費など)を知ることが出来たり、面白い話をきいたり実験をしたりできて楽しかった」「日本画に使われる絵具が美しかった」「日本画の描き方や掛軸のかけ方などとても分かりやすく楽しく体験できました」「虫を顕微鏡でみることはあまりなかったのでやって良かった」「今までは学芸員の仕事についてほとんど知りませんでしたが、今日のイベントでその一端に触れることができよかったです」「うちわを作るのが楽しかったです。また機会があれば参加したいです」「たくさんのお気遣いなどをありがとうございました。楽しかったです！」などが受講生のアンケートの主な感想です。

アンケート結果から、参加者(中学生、高校生、保護者)から好意的な意見、感想を頂き、充実したプログラムが実施できたと感じています。保護者の方からも「大変わかりやすく話をしていただき、また子どもも飽きることない内容に思いました」「大変興味深い企画でした。講義のみではなく貴重な体験をさせて頂き、子どもたちも飽きる事なく取り組むことが出来たのではないのでしょうか」等の感想を頂きました。プログラム終了後に希望者向けに実施した博物館バックヤードツアーも、普段は入ることができない収蔵庫などが見学できたと好評でした。

学生に、スタッフとして子どもと接する機会を提供できたこと、現職の学芸員、美術科教諭と子どもたちとの間でもコミュニケーションが生まれた点も、貴重な成果であったと思います。

他方、保護者の方から「学芸員のお仕事の苦労話を聞いてみたかったです。失敗談も。研究内容や修復作業のことなど、もっと専門的な難しいお話も時間があれば聞いてみたかったです」との感想もありましたので、今後の発展性としては、講義内容に失敗談なども盛り込む、やや難しい内容でも受講生が失敗を恐れずに参加体験できるようなプログラムを開発するなどが考えられます。引き続き、専門的な内容をいかに噛み砕いてわかりやすく伝えることができるか、を今後の課題としたいと考えます。

【実施分担者】 なし

【実施協力者】 6名

【事務担当者】 清田拓也 東海大学 研究支援課